

## 2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

2019年度は、講演会とワークショップを行った。5月24日にはマウロ・カルボーネ教授(リヨン第三大学)をお招きし、「超え出るための限定—ヴァリエーションによって自らを基礎づける〈原スクリーン〉というテーマ」と題する講演が行われ、現代のメディア、テクノロジーも視野に収めながら、視覚とスクリーンの関係についての歴史的考察をうかがうことができた。また1月26日には研究センターメンバーの佐藤勇一氏(福井工業高等専門学校)の企画により、中川雅道氏(神戸大学附属中等教育学校)をお招きし、ワークショップ「対話の促し」を開催し、「対話の哲学」「こどもの哲学」などの観点から、哲学の新しい教育方法についての研究を展開することができた。

2019年度の年度末(2月、3月)にかけての企画は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、残念ながら中止せざるを得なかった。中止された企画は、「中山大学との連携による「第二回東アジア現象学会議」、劉國英教授(香港中文大学)講演会「現代フランス思想と政治」、ゲオルク・シュテンガー教授(ウィーン大学)、ミハイル・シュタウディグル教授(ウィーン大学)、ナミン・リー教授(ソウル大学)、リャン・カン＝ニー教授をお招きしての国際シンポジウム「〈あいだ〉と〈越境〉—間文化現象学の展開と新たなはじまり」であった。これらの企画はこれまでに形成された研究ネットワークに基づいて、ヨーロッパ、アジアとの国際的な研究連携となるはずのものであっただけに残念であるが、2020年度には何らかの形で開催したいと考えている。

若手研究者の育成、支援については、2019年度も順調であり、当センターに所属する3名の若手研究者がそれぞれの博士論文を著書として刊行した。(横田祐美子『脱ぎ去りの思考』(人文書院)、酒井麻依子『メルロ＝ポンティ 現れる他者・消える他者』(晃洋書房)、松田智裕『弁証法、戦争、解読:前期デリダ思想の展開史』(法政大学出版局)である。また、このうち一名は日本学術振興会のPDに採用された。また若手研究者の一名が立命館大学専任研究員に採用された。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	谷 徹	文学部	教授	
運営委員	北尾宏之	文学部	教授	
	伊勢俊彦	文学部	教授	
	加國尚志	文学部	教授	
	林 芳紀	文学部	准教授	
	亀井大輔	文学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)				
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		酒井 麻依子	文学部	初任研究員
		松田 智裕	文学部	初任研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	有村直輝	文学研究科	博士課程後期課程
		栴川耕平	文学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	青柳 雅文	文学部	非常勤講師 客員協力研究員	
	小田切 建太郎	文学部	授業担当講師 客員協力研究員 学振特別研究員 PD(京都大学)	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師 客員協力研究員	
	小林 琢自	文学部	非常勤講師 客員協力研究員	
	鈴木 崇志	文学部	授業担当講師 客員協力研究員	

	田邊 正俊	文学部	非常勤講師 客員協力研究員
客員協力研究員	池田 裕輔	釧路工業高等専門学校	専任講師
	黒岡 佳柁	福州大学 (中華人民共和国)	専任教員
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員 計 20名 (うち学内の若手研究者 計 5名)			

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	谷徹	『言葉——日独文化研究所シンポジウム——』	共著	2019年10月	公益財団法人日独文化研究所/こぶし書房	公益財団法人日独文化研究所(編)	pp. 43-60, 183-194
2	谷徹	The Oxford Handbook of JAPANESE PHILOSOPHY	共著	2019年9月	Oxford University Press	Bret W. Davis (ed.)	pp. 631-648
3	伊勢俊彦	因果・動物・所有：一ノ瀬哲学をめぐる対話	共著	2020年1月	武蔵野大学出版会	宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝(編)	pp. 311-332
4	林芳紀	いまを生きるための倫理学	共著	2019年11月	丸善出版	盛永審一郎・松島哲久・小出泰士(編)	pp. 162-169
5	横田祐美子	世界の終わりの後で：黙示録的理性批判	共訳	2020年3月	法政大学出版局	ミカエル・フッセル(著) 西山雄二、伊藤潤一郎、伊藤美恵子、横田祐美子(訳)	pp. 89-128, 341-348
6	横田祐美子	脱ぎ去りの思考——バタイユにおける思考のエロティシズム	単著	2020年3月	人文書院		
7	酒井麻依子	メルロ＝ポンティ 現れる他者/消える他者：「子どもの心理学・教育学	単著	2020年3月	晃洋書房		
8	松田智裕	弁証法、戦争、解読：前期デリダ思想の展開史 = Dialectique, guerre, déchiffrement : le développement de la pensée de Jacques Derrida	単著	2020年3月	法政大学出版局		
9	池田裕輔	マルク・リシール現象学入門 サンヤ・カールソンとの対話から	共訳	2020年2月	ナカニシヤ出版	マルク・リシール サンヤ・カールソン(著)	pp. 61-85
10	池田裕輔	Wohnen als Weltverhältnis. Eugen Fink über den Menschen und die Physis	共著	2019年8月	Karl Alber	Giovanni Jan Guibilato (et. al.)	S. 15-41
11	黒岡佳柁	ハイデガーにおける共存在の問題と展開——哲学・有限性・共同性	単著	2020年2月	晃洋書房		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無

1	谷徹	生・ロゴス・パトス	単著	2020年3月	公益財団法人日独文化研究所、『文明と哲学』、第12号		pp. 70-83	無
2	加國尚志	野生の知覚、なまの知覚— —後期メルロ＝ポンティ の「研究ノート」における 知覚経験の位相	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 48-58	無
3	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わる ものと後に残るもの ある いは償いと継続的コミ ットメント	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 34-47	無
4	北尾宏之	カント『道徳形而上学の基 礎づけ』の研究(四) — 第 二章の研究(その二)	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 23-33	無
5	林芳紀	ドーピングとエンハンス メント——トマス・マレー のエンハンスメント論— —	単著	2020年3月	『法の理論』、第38号	長谷川晃・酒匂一 郎・河見誠・中山 竜一(編)	pp. 25-50	無
6	林芳紀	正義原理に基づいて行為 する理由——ロールズ『正 義論』第八章における道徳 的動機づけの問題	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 70-83	無
7	林芳紀	医学研究者の追加的ケア の責務とその射程の限定 をめぐる論争	単著	2019年9月	日本生命倫理学会、『生 命倫理』第29巻第1号		pp. 103-111	有
8	亀井大輔	デリダの(経験)論	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 59-69	無
9	亀井大輔	《歴史の思考》をさらに進 めるために——『デリダ 歴史の思考』補遺——	単著	2019年12 月	立命館大学人文科学研 究所、『立命館大学人文 科学研究所紀要』、第 120号		pp. 151-163	有
10	酒井麻依子	メルロ＝ポンティにおける 「前人格的実存」概念の深 化: カーディナー解釈を手 がかりに	単著	2019年9月	日仏哲学会、『フランス 哲学・思想研究』、第24 号		pp. 143-154	有
11	松田智裕	生の再現前化と悲劇の弁 証法——デリダのアルト ——	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 265-277	無
12	松田智裕	アイノスは歴史的なのか ——亀井大輔『デリダ 歴 史の思考』について——	単著	2019年12 月	立命館大学人文科学研 究所、『立命館大学人文 科学研究所紀要』、第 120号		pp. 93-107	有
13	有村直輝	ホワイトヘッドにおける 形而上学と論理学—— 1924-25年の資料にもと づく考察——	単著	2019年12 月	日本ホワイトヘッド・ブ ロセス学会、『プロセス 思想』、第19号		pp. 47-60	有
14	青柳雅文	個別と普遍をめぐる(非同 一的なもの)の問題: ア ドルノの現象学研究を手 がかりとして	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研 究所、『立命館大学人文 科学研究所紀要』、第 123号		pp. 145-172	有
15	青柳雅文	アドルノと他者経験論— —現象学研究をつうじた 他者概念の理解	単著	2019年8月	日本現象学・社会科学 会、『現象学と社会科 学』、第2号		pp. 47-61	有
16	小田切建太郎	動(詞)的観点から見た事 実性の射程と限界	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 224-238	無
17	小田切建太郎	ハイデガーとヘルダーリ ンの「宗教について」(「哲 学書簡の断片」)	単著	2019年12 月	立命館大学人文科学研 究所、『立命館大学人文 科学研究所紀要』、第 120号		pp. 61-90	有
18	神田大輔	フッサール現象学におけ る《意志の受け継ぎ》と動 機づけについて	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、 『立命館文學』、第665 号		pp. 175-188	無

19	鈴木崇志	対話のような想起:フットボールの記憶論の展開に関する一考察	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文藝』、第665号		pp. 253-264	無
20	鈴木崇志	二人称的な他者に関するフットボールとシュツの思想の比較	単著	2019年8月	日本現象学・社会科学会、『現象学と社会科学』、第2号		pp. 63-77	有
21	鈴木崇志	「基礎関係」の現象学の可能性:フットボールとレヴィナスの他者論の比較を手引きとして	単著	2019年6月	関西哲学会、『アルケー』、第27号		pp. 86-97	有
22	池田裕輔	事実性、超越論的現象学と形而上学の問題	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文藝』、第665号		pp. 204-223	無
23	佐藤勇一	模擬裁判員裁判を用いた福井工業高等専門学校における主権者教育の試み	共著	2019年12月	福井工業高等専門学校、『福井工業高等専門学校研究紀要 人文・社会科学』、第53号	共著者:川畑弥生	pp. 1-20 (pp. 1-2, 8-14, 17-18 担当)	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	谷徹	人稱と文化 中国語訳「人稱與文化」	2019年10月	第二十四届 中国現象学会年会	
2	伊勢俊彦	歴史的不正義からの個人の尊厳の回復:韓国の事例に則して	2020年2月	関西唯物論研究会	
3	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと残されるもの あるいは償いと継続的コミットメント	2019年10月	唯物論研究協会第42回研究大会、島根大学	
4	伊勢俊彦	Apology, Repair, and Lasting Commitment	2019年9月	第6回日中哲学フォーラム、中華人民共和国、中山大学哲学系	
5	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと残されるもの あるいは償いと継続的コミットメント	2019年6月	京都生命倫理研究会2019年6月例会、京都女子大学	
6	伊勢俊彦	謝罪と赦し、被害の訴えを受け止める継続的責任	2019年4月	応用哲学会第11回年次研究大会、京都大学	
7	亀井大輔	「バベルの塔」を読む	2019年12月	ジャック・デリダ『プシュケ——他なるものの発明』、合評会、早稲田大学	
8	亀井大輔	Derrida's theory of "experience"	2019年9月	第6回日中哲学フォーラム、中華人民共和国、中山大学哲学系	
9	亀井大輔	technè, phonè, alètheia: Voice and Phenomenon and Heidegger	2019年5月	Derrida et la technologie, France, Columbia Global Centres	
10	横田祐美子	終わりなき有限性 ——ジャン＝リュック・ナンシーにおける他化の運動について	2020年3月	日本フランス語フランス文学会関東支部大会、東京藝術大学 (コロナウイルス感染拡大の影響から大会は開催中止となり、代替措置として発表音声と配布予定だったレジュメのデータファイルを提出した。)	
11	横田祐美子	「女性的に書く」とはいかなる身振りか——イリガライの差異の哲学にもとづいて	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と哲学思想研究会「「異なる者」たちの共生を目指して」、立命館大学	
12	横田祐美子	幽霊の倫理、決断の狂気 ——ジャック・デリダから考える(反)出生の問題	2019年11月	『現代思想』11月号にまつわるシンポジウム「生まれてこないほうがいいなんて言っちゃいけないなんて言わないでなんて言っちゃダメですか!」、学習院大学	
13	酒井麻依子	メルロ＝ポンティとフェノン:レイシズムの身体論	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と哲学思想研究会「「異なる者」たちの共生を目指して」、立命館大学	

14	酒井麻依子	ジェンダーの身体、その歴史性と創造性：メルロ＝ポンティとJ・バトラー	2019年12月	第5回「顔・身体学」領域会議「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」、沖縄県市町村自治会館	
15	酒井麻依子	『第二の性』を読むメルロ＝ポンティ	2019年9月	日本メルロ＝ポンティ・サークル第25回研究大会、成城大学	
16	酒井麻依子	Adult-Child Relationships Described by Merleau-Ponty and an Ethical Relationship with Others	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
17	松田智裕	証言、和解、赦し——デリダの南アフリカ——	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と哲学思想研究会「「異なる者」たちの共生を目指して」、立命館大学	
18	松田智裕	時間の弁証法——フッサール『時間講義』をめぐるピカールとデリダ——	2019年11月	日本現象学会第41回研究大会、岡山大学	
19	松田智裕	遊戯と徴候学の交叉——1960年代デリダのニーチェ	2019年10月	脱構築研究会ワークショップ「ニーチェと戦後フランス思想、クロソウスキー、ドゥルーズ、デリダ」、早稲田大学	
20	有村直輝	Whitehead and Sheffer's incompatibility; An Investigation on the Relationship between Metaphysics and Logic	2019年8月	12th International Whitehead Conference, Brazil, University of Brazilia	
21	有村直輝	1924-25年のホワイトヘッドにおける形而上学と美学	2019年6月	アメリカ哲学フォーラム第6回大会、京都大学	
22	柳川耕平	フッサール中期時間論『ベルナウ草稿』における自我の二重的性格	2019年11月	日本現象学会第41回大会、岡山大学	
23	柳川耕平	初期フッサール時間論における時間位置の個体化について	2019年10月	関西哲学会第72回大会、同志社大学	
24	柳川耕平	The In-each-other of protention and retention in the Bernauer manuscripts	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
25	柳川耕平	Das Ineinander von Protention und Retention in den Bernauer Manuskripten	2019年4月	Phänomenologische Werkstatt, Deutschland, Husserl Archiv der Universität zu Köln	
26	小田切建太郎	ハイデガーと他動詞性——ヘーゲル、シェリングとの近さと遠さから——	2019年5月	日本哲学会第78回大会、首都大学東京	
27	小田切建太郎	The more tender and more infinite relationship: On the mediation in Heidegger	2019年4月	17th annual Conference of the Nordic Society for Phenomenology, Denmark, University of Copenhagen	
28	鈴木崇志	Practical Intentionality in the Social World: A Husserlian Approach	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
29	池田裕輔	Fink und Kants Dialektik	2020年2月	Eugen Fink und die Klassische Deutsche Philosophie, Eine Auseinandersetzung im Spannungsfeld zwischen Transzendentalphilosophie, Phänomenologie und Metaphysik 1. Internationale Forschungstagung des Eugen-Fink-Zentrums Wuppertal (EFZW)	
30	佐藤勇一	哲学対話における対話の促しへの考察——メルロ＝ポンティ・インゴルドとともに——	2020年1月	ワークショップ、「対話の促し」、立命館大学	中川雅道

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ワークショップ「対話の促し」	衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2020年1月	20名	
2	マウロ・カルポーネ教授講演会	衣笠キャンパス 末川記念会館第三会議室	2019年5月	20名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	谷徹	『現象学』、新田義弘著	河合塾、『わたしが選んだこの一冊』（2019）、p. 27	2019年6月
2	亀井大輔	【書評】岩野卓司著『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』	図書新聞、3436号	2020年2月
3	横田祐美子	【論考】フェミニズムは哲学の遺産をどのように継承するのか——脱構築と女性的なものをめぐる思考	青土社、『現代思想』、3月臨時増刊号（第48巻第4号）、pp. 257-263	2020年2月
4	横田祐美子	【書評】石川優実著『#KuToo——靴から考える本気のフェミニズム』（現代書館）	図書新聞、3434号	2020年2月
5	横田祐美子	【論考】私が「男尊女卑・家父長制」を退けた「結婚式」を挙げた理由——結婚式のデモクラシー／脱構築の実践	講談社、『現代ビジネス』 <a href="https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69042">https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69042</a>	2019年12月
6	横田祐美子	【新刊紹介】酒井健『バタイユと芸術 アルテラシオンの思想』	表象文化論学会ニューズレター、REPRE, vol. 37	2019年10月
7	横田祐美子	【研究手帖】結婚式のデモクラシー	青土社、『現代思想』2019年6月号（第47巻第8号）、p. 246	2019年6月
8	横田祐美子	【書評】ランシエールの思想を貫く「知性の平等」について論じる——「哲学者」と「その貧者たち」の分断・疎外の歴史を明らかに（ジャック・ランシエール著、松葉祥一・上尾真道・澤田哲生・箱田徹訳『哲学者とその貧者たち』、航思社）	図書新聞、3396号	2019年4月
9	鈴木崇志	間主観性とは何か：フッサール研究者の視点から	「身体と言語」研究会特別企画 ( <a href="https://bodyandlanguage.jimdofree.com/activity20190924/">https://bodyandlanguage.jimdofree.com/activity20190924/</a> )	2019年9月
10	佐藤勇一	福井高专でSDGs 関連の特別授業	『文教速報』、第8803号、p. 19	2020年2月
11	佐藤勇一	高专カフェ「メルロ＝ポンティ思想紹介——哲学と絵画・対話——」	福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター主催、於：福井工業高等専門学校コミュニティールーム	2020年1月
12	佐藤勇一	哲学対話を用いた新入生情報倫理教育（2019年度） 明石工業高等専門学校、座談会参加	明石工業高等専門学校	2019年7月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	酒井麻依子	新学術領域研究「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」	若手優秀発表賞優秀賞	ジェンダーの身体、その歴史性と創造性；メルロ＝ポンティとJ・バトラー	2019年12月
2	鈴木崇志	関西哲学会	研究奨励賞	「基礎関係」の現象学の可能性——フッサールとレヴィナスの他者論の比較を手引きとして	2019年10月
3	黒岡佳柁	福州大学外国語学院	学生教育奨励金		2019年12月
4	黒岡佳柁	日本僑報社	優秀指導教師賞		2019年12月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割

1	加國尚志	メルロ＝ポンティの未刊草稿の研究	基盤研究 (B)	2019年4月	2022年3月	分担
2	加國尚志	加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証	基盤研究 (B)	2017年4月	2020年3月	分担
3	松田智裕	ジャック・デリダを中心とした戦後フランスの哲学教師論の展開に関する研究	研究活動スタート支援	2019年9月	2021年3月	代表
4	青柳雅文	アドルノの亡命期間における現象学研究の解明	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
5	小田切建太郎	シェリング及び現象学におけるその継承と展開に関する研究	若手研究 (B)	2019年4月	2023年3月	代表
6	小林琢自	尾高朝雄の"現象学的"国家論における「全体」概念について	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
7	鈴木崇志	現象学の見地からの「共同体」概念の研究	研究活動スタート支援	2019年9月	2021年3月	代表

#### 8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	酒井麻依子 横田祐美子 松田智裕	「異なる者」たちの共生を目指して：差別をめぐる二十世紀フランス思想史の研究	国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト B4 「差別と哲学思想研究会」立命館大学 立命館大学国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究助成プログラム	2019年6月	2020年2月	酒井麻依子 (代表) 横田祐美子、松田智裕 (分担)
2	横田祐美子	博士論文「脱ぎ去りの思考——ジョルジュ・バタイユにおける思考のエロティシズム」の出版助成	2018年度秋学期立命館大学大学院博士課程後期課程 博士論文出版助成制度	2019年3月	2020年3月	代表
3	松田智裕	博士論文「弁証法、戦争、遊戯——前期デリダ思想の生成と展開について——」の出版助成	2018年度秋学期立命館大学大学院博士課程後期課程 博士論文出版助成制度	2019年3月	2020年3月	代表

#### 9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本